

カンボジア計画省統計局新庁舎（通称統計センター）竣工式における
秋葉総務大臣政務官のスピーチ

敬虔なる僧侶のみなさま、サー・ケン副首相、チャイ・タン計画大臣、オウク・チャイ計画次官、サン・シー・タン計画省統計局長、ご列席のみなさま、

私は、日本から参りました総務大臣政務官の秋葉賢也でございます。このたびは、この栄えある式典にお招きいただき、誠にありがとうございます。

本日は、計画省統計局新庁舎の竣工、誠にめでとうございます。私は、総務大臣政務官の立場としても、また、カンボジアとの個人的な関係からも、本日、この新庁舎の竣工式を迎えられたことは、大きな喜びでございます。

私が所属しております総務省は、国の基本的仕組みに関わる幅広い様々な任務を負っておりますが、その中でも特に大事なものの一つとして人口センサスや経済センサスなどの国の基本となる統計の作成を担当しております。統計は、技術的普遍性、言い換えれば「世界の共通言語」としての性格をもち、総務省がこれまで蓄積した統計の知識・経験は、海外においても役立てることができるものです。総務省は、このような観点から、カンボジア計画省のカウンターパートとして、この3月に実施が迫っているカンボジア 2008 年人口センサス等を政府開発援助のプロジェクトとして支援してまいりました。また、その一環として、この新庁舎の建設に関しましても、重要な人口センサス関連プロジェクトとして位置付け、実現に向けて支援してまいりました。

また、私自身も、カンボジアとのご縁が深く、昨年8月にも、国会議員団の一員としてカンボジアに参りました。そのときにはフンセン首相にお会いする機会をいただき、このプロジェクトのことも話題になりました。また、昨年9月には、東京で、カンボジアのプー・ソティレアット特命全権大使の夕食会にお招きいただき、カンボジアとの親交を深めてまいりました。

この機会に、竣工式を迎えるまでの経緯をご紹介します。2003年に総務省の主催で日本の京都で開催しました東アジア統計局長会議に、サン・シー・タン統計局長が出席されました。その機会に、サン・シー・タン局長から総務省統計局長に対して、カンボジア 2008 年人口センサス等への支援と統計センター建設への支援の2つの要請がありました。これを受けて、総務省は、カンボジア計画省へ職員を派遣し、これらの2つの支援プロジェクトを立ち上げることになりました。総務省は、これまでに16回にわたりカンボジア計画省へ専門職員を派遣して、これらのプロジェクト推進に尽力し、この竣工式を迎えるに至ったのでございます。

この新庁舎は、まず、人口センサスの集計のために大いに利用されますが、その集計の開始時期が、この4月からとなっております。それに間に合うタイミングで新庁舎が竣工されたことは、関係者のみなさまのご尽力の賜物であります。この大いなる成果に敬意を表すとともに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

人口センサスは、カンボジアが取り組む最も重要な事業の一つです。人口センサスは、カンボジアの人口を漏れなく数え、詳細な統計を作成するものです。センサスから得られる人口統計は、カンボジアの発展に必要な様々な政策やプロジェクトの企画立案に不可欠なものです。しかし、センサスの意義はそれだけに留まりません。人口センサスは、他の統計を作成するための基礎ともなるものです。カンボジアの社会経済の発達とともに、人口統計以外にも様々な分野の正確な統計が必要とされていることと思います。国の統計は、カンボジアの各種政策立案に大きな影響を及ぼします。この意味において、人口センサスはカンボジアの自立的発展にとって大変重要な礎となるものですので、我が国は様々な技術協力の大切な要素の一つとして、統計整備の支援を行っているものです。

ここで、我が国の総務省が中心となって支援している技術協力プロジェクトを簡単にご紹介させていただきます。正式の名称を「カンボジア政府統計能力向上計画」といい、すでにフェーズ1を終了し、昨年、フェーズ2に入っております。これまでの主な活動には四つの要素があります。

第一に、総務省職員を始めとした我が国の統計専門家をカンボジア計画省へ派遣し、人口センサスを中心とした統計の技術指導を実施しています。

第二に、総務省が主な受け入れ機関となって、カンボジア計画省職員を研修員として受け入れ、人口センサスを中心とした統計の研修を実施しています。

第三に、カンボジア計画省職員を研修員として第三国のインドネシア中央統計庁へ派遣し、経済センサスの研修を実施しています。いわゆる南々協力も推進しています。

第四に、サーバやパソコン等のプロジェクト推進に必要な機材を、カンボジア計画省に供与しています。

このほか、フェーズ1では、今回の人口センサス実施を見据えて、カンボジア計画省統計局を始めとした各省の統計職員及び地方行政機関の統計職員約550名を対象に、我が国の優秀な講師陣を派遣して、包括的かつ集約的な統計研修を実施し、カンボジアの政府統計職員の統計能力向上を図りました。

このように、我が国は、今回の人口センサスに対する支援、協力を中心として、統計の改善に向けた支援を行って参りました。

今回建設された新庁舎は、技術協力により移転された技術を、長期的に、より効果的に用いるために、貴国の発意で、我が国のノンプロジェクト無償資金協力の見返り資金の用途として選択されたものです。このことは、貴国における統計技術の自立発展に必ずや資するものと信じております。

また今後も、我が国はカンボジアとの益々の関係発展を期待しております。同時に、カンボジアの統計のさらなる発展も願っております。このプロジェクトは、現時点では 2010 年までを予定しております。貴国においては、人口センサスの終了後には、経済センサスを実施する予定と伺っております。日本国は、現在のフェーズ 2 におきましても、事業所名簿整備等、その準備に協力しているところでございます。今後、経済センサスの実施に向けて貴国から、我が国への協力の要請があった場合には、日本国として協力が可能かどうか、真摯に検討して参る所存でございます。

最後に、国と国との交流の基を成すのは、人と人の交流でございます。この意味において、本プロジェクトを通じて、カンボジアと我が国の人々の多くの交流の場があることは誠に幸いです。また、先ほど篠原勝弘特命全権大使閣下からご紹介がございましたように、今年は日本とカンボジアの外交関係樹立 55 周年の年にあたります。日カンボジア友好年 (Friendship Year 2008) として、カンボジアにおいては年間を通じ、様々な行事が行われると聞いておりますが、私の訪問が、我が国の国会議員としての今年初めての訪問とのことで、大変、光栄に思います。このように、技術協力のみならず、人と人の触れ合いが、カンボジアと我が国の永い友好関係につながれば、それは我が国の政府開発援助として期待される最善の結果でございます。

この新庁舎が、記念のプレートにも記されておりますとおり、カンボジアと日本のみならず、カンボジア計画省と総務省の友好の証として、未永く活用されつづけることを希望するとともに、人口センサスが成功裏に終わり、カンボジアの統計改善に資することを切に願っております。

ご静聴どうもありがとうございました。